

「ゆとり」って何?

この4月から学校週5日制が実施され、3ヶ月が経過した。学力の低下が心配されたこともあり、土曜日に補習をする学校や塾に通わせる家庭も出てきているようだ。

でも、私の周りでは特に変化は見られない。学校も地域も家庭も、今はもうこの状態を受け入れたといふが、ずっと前から5日制だったように過ごしているように見える。

学校や地域では多分「家庭でやつてくれる」と思っているのかな。今お母さんは土曜日に働いている人も多くて、「家庭での教育」にとても手が回らない。塾やスポーツクラブに通わせている人もいるけれど、全員ではない。

じやあ子供達はどうしてる? 最近の埼玉県のアンケート調査によると、40%の子供達は「何もしてない」と答えている。

言葉は悪いかもしれないが、ほとんど「ほつたらかし?」状態!

当然子供達は遊んでいて、「勉強」などしていない。遊びからも多くることが学べるはずけれど、今の子供達は、遊びというと少人数だし、家の周りには広場も空き地

もないし、施設もない。だから「家でゲーム」だね、きっと。新学習指導要領には「生きる力を育む」「自ら考え、自ら学ぶ」「ゆとり」「個性」などなど美しい言葉が踊っている。でも学習内容を3割も減らして「学力低下」は大丈夫なの?

今、教育関係者の間では、子供達の「自ら学ぶ」という基本的な勉強からの「逃走」が深刻な問題として取り上げられているらしい。

ある調査によると、7~8割の子供達が勉強から「逃走」しているそうだ。その結果、「学力低下」の実態が予想以上であるらしい。

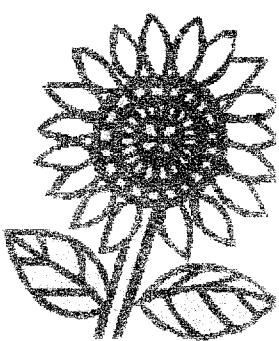
我が家の下の子(小学校5年生)もその典型で、勉強嫌い。だから、好きなことをちょっとやって終わら、もう大変な状態だ。先生、勉強をちゃんと教えて!

創造性というけれど、あのピカソのデッサンはすぐ正確だそうだ。読み書きそろばん、基礎基本が出来ていないと「個性」など育むれないし、「生きる力」など育むことは出来ないよ。

それに加わるというところに来ていいが、しかし、力つきで倒れる企業があとをたたない。一筋の光を暗中模索する日々はいつまで続くのか、不安は募るばかりだ。

上を目指せば価格競争は避けられない。価格競争から何も生み出されない事は解ってはいても、抜本的な対策のない状況の中で一筋の光を求めるべく、不本意ながらも企業があとをたたない。

「一筋の光」



「私の街の子供達」



明正小学校の登校風景

この4月から学校週5日制が実施され、3ヶ月が経過した。学力の低下が心配されたこともあり、土曜日に補習をする学校や塾に通わせる家庭も出てきているようだ。

でも、私の周りでは特に変化は見られない。学校も地域も家庭も、今はもうこの状態を受け入れたといふが、ずっと前から5日制だったように過ごしているように見える。

学校や地域では多分「家庭でやつてくれる」と思っているのかな。今お母さんは土曜日に働いている人も多くて、「家庭での教育」にとても手が回らない。塾やスポーツクラブに通わせている人もいるけれど、全員ではない。

じやあ子供達はどうしてる? 最近の埼玉県のアンケート調査によると、40%の子供達は「何もしてない」と答えている。

言葉は悪いかもしれないが、ほとんどの「ほつたらかし?」状態!

当然子供達は遊んでいて、「勉強」などしていない。遊びからも多くすることが学べるはずけれど、今の子供達は、遊びというと少人数だし、家の周りには広場も空き地

もないし、施設もない。だから「家でゲーム」だね、きっと。新学習指導要領には「生きる力を育む」「自ら考え、自ら学ぶ」「ゆとり」「個性」などなど美しい言葉が踊っている。でも学習内容を3割も減らして「学力低下」は大丈夫なの?

今、教育関係者の間では、子供達の「自ら学ぶ」という基本的な勉強からの「逃走」が深刻な問題として取り上げられているらしい。

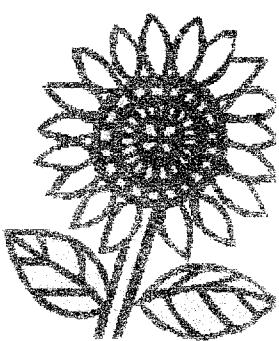
ある調査によると、7~8割の子供達が勉強から「逃走」している

勉強からの「逃走」が深刻な問題として取り上げられているらしい。

我が家の下の子(小学校5年生)もその典型で、勉強嫌い。だから、好きなことをちょっとやって終わら、もう大変な状態だ。先生、勉強をちゃんと教えて!

創造性というけれど、あのピカソのデッサンはすぐ正確だそうだ。読み書きそろばん、基礎基本が出来ていないと「個性」など育むれないし、「生きる力」など育むことは出来ないよ。

「一筋の光」



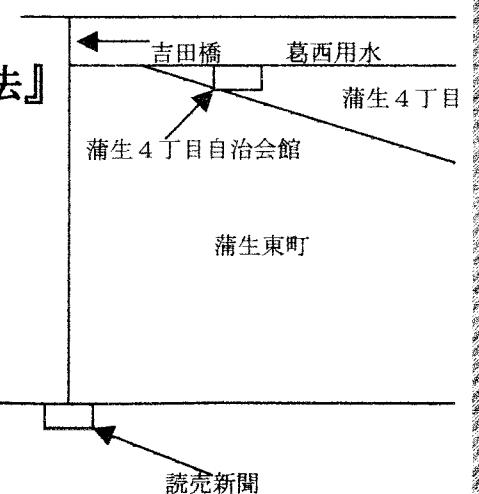
「私の街の子供達」



明正小学校の登校風景

ご案内

川柳町



「語っちゃう会」へのお誘い

テーマ

『悪徳商法の事例と対処法』

講師弁護士 伊豆 隆義 氏

日時 平成14年7月27日(土)

午後7時~午後9時まで

場所 蒲生4丁目自治会館

会費 300円

お問い合わせ 伊藤おさむ事務所

048-985-4826まで



いとう
伊藤

おさむの市民ニュース

ホット・ホット・越谷

発行責任者:高橋 正久

平成14年7月1日発行 №2

〒343-0838 越谷市蒲生三丁目七番七号

TEL 048-985-4826 FAX 048-989-2397

E-mail osamuchan@ae.wakwak.com URL http://www.ae.wakwak.com/~osamuchan



蒲生駅



中央通り商店街

新しい風

これは、中央政界の実態に止まらず自分達の足元である地域の現実が「政治改革」を最も進めなければならぬことを実感したことであった。「政党政治の不在」「政党としての機能不全」、「国民に対する責任感覚の欠如」等。上げればきりがないくらいの問題を抱えていることに、伊藤さんは真剣に立ち向かい、地域からの「政治改革」を通して、日本政治の改革を始めようとしていることである。

この一年、「構造改革」「政治改革」など、改革という言葉があふれた割には実効性がなく、何処が改革されたのかさっぱり分からぬのが現実である。

しかし、だからといって改革をあきらめてもよいと言う事にはならない。スキヤンダルと、「劇場政治」に明け暮れる、最近の政治を観ていれば、「政治改革」は待たなしである。

伊藤さんが、強い意思を持つて「政治改革」を語るのには理由がある。本人自身が、実際に「政治」にかかわり、その現実の過程をぶさに見て真剣に考えているからである。

地域を知るシリーズ No.1

高齢者が住みやすい町(蒲生)

蒲生東町で、高齢者を中心に、お茶を飲みながら昔話を聞きました。中には、92歳の方もいて大正時代からの村から町への、変遷過程を詳しく聞き、地域を改めて知ることが出来ました。

地域の昔と今

今は閑静な住宅街になっている蒲生東町周辺は、戦後の農地改革によって小作人による開拓が始まり、用水と、ほとんどが田んぼで、人口も少なかったようです。今でも地名として語り継がれている一軒家、二軒家という呼び名は、その当時の状況を反映しています。

昭和37年～38年頃、地元の吉田工務店が用地買収と宅地開発を行い、建売住宅販売が始まりました。当時はほとんどが平屋で、平均25坪ぐらいで、価格も120万円～200万円といったところでした。この時代に移り住んだ人が多く、サラリーマン世帯を中心とする、地方からの移住がほとんどでした。

駅から少し離れていましたが、当時よくあった水害などもなく、買い物も蒲生商店街で出来て、環境は良かったそうです。

ほぼ同時時代の住人ということもあって、自治会を始めとするコミュニティーの活動は活発で、住民同士の親睦、交流が出来ています。

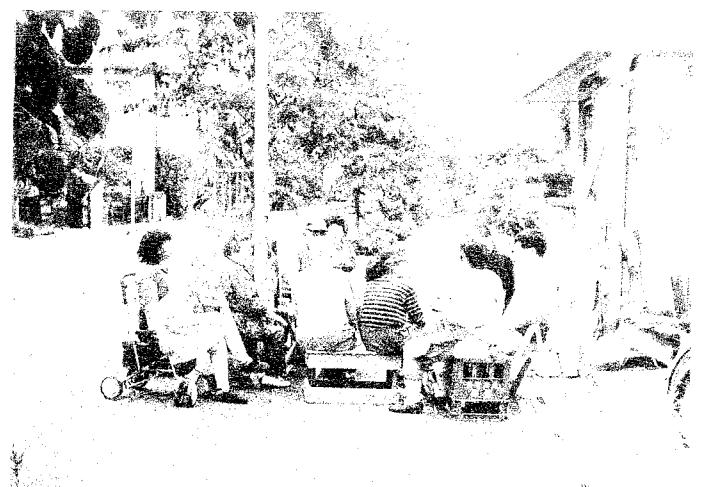
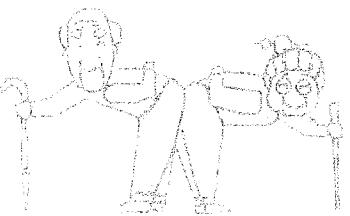
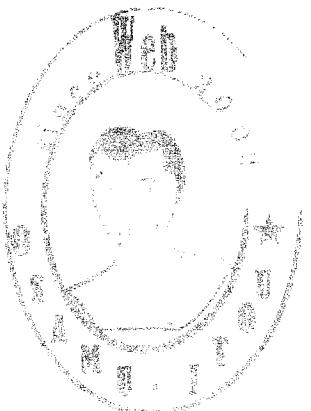
この町は住みやすい町ですか？

- ◎ この町のいい所は、風水害がないこと。
- ◎ 住民同士の、助け合いが出来ること。隣が見える関係が出来ていること。
- ◎ 事故、犯罪が少ない静かな住宅街であること。

どんなことを望みますか？

- ◎ 高齢者が安心して、歩ける、買い物が出来る、休めて話や出会う場所があつたらいい。
- ◎ 身近で話が出来る場所がない。けやき荘のような施設を、蒲生地域にも作ってほしい。
- ◎ 最近、ある高齢者が引ったくりにあった。高齢者にも安全な町づくりをお願いしたい。

まだまだ、問題点はあるようですが、皆さんお元気で、いきいきとお話をしていたのが印象的でした。



～そんなに議長になりたいの？～

春日部市議会で、議長の選出をめぐって13日間も紛糾した。事のきっかけは、議長任期は1年とする（暗黙の合意）ことを現職議長が拒否したことから、交代を求める会派との争いとなった。

マスコミにも取り上げられたように、そこには会派の駆け引き、ポストの裏取引といった様々なことや、議会空転の責任の押し付け合いがあり、市民不在の議論に明け暮れる議会の姿が暴露され市民もあきれたとある。

しかし、これらの現象は春日部市の場合だけではなく、他の市町村でも日常的な問題なのである。現に、越谷市の6月議会でも、議長選挙をめぐって最大会派の中で若干混乱があったという。

なぜ、このようなことが生じるのだろうか、本来、議會議長とは、議会の尊厳・良識・秩序を代表するものである。したがって会派を越えて、それに相応しい人が選ばれるのが自然なのだが、実際は多数派会派の順送り人事になっていることである。つまり、議長は議員にとって名誉職で、特権であり、能力とは関係なく一度はつきたい職なのである。（報酬・交際費・車がつく・特権がある）このような、特権に群がる欲ボケ議員の中には、市民に選ばれたという意識も、議会の尊厳もなく、恥じるという感覚も失われている。

このような議員が多いことを、市民は冷静に見ておかなければならない。

川柳在住 Tさん

伊藤 あさむの

～パリアフリー検証～

2002年の最大イベントでもあるワールドカップが終わり、世界中が普段の生活に戻り始めています。今回、ブラジルが優勝し、開催国韓国がベスト4、我が国日本はベスト16に入るという、前代未聞の好成績をのこし、華々しく幕を閉じました。今回は、そんなワールドカップの最中に私が体験した素晴らしい出来事を紹介したいと思います。

その日は、東京に用事があり、午後8時頃、埼玉高速鉄道を利用していました。私が電車に乗ったとき、ちょうど埼玉スタジアムで試合が終ったのか、日本と外国のサポーターで満員でした。髪の毛を立たせた人や、顔中落書きの人、アルコールの臭いをブンブンさせた人や、感動の涙で化粧のされた人など、様々でしたが、とてもいい雰囲気でした。私は杖についていましたが、皆それに気付かず、また、私も気付かせることのないように立っていました。その時です、「気がつかなくてごめんなさい！」といって向こうの方から一人の男性が席をゆずろうとやってきました。その男性は、今流行りの茶髪とピヤスの若者でしたので、「うそっ！」と思ったのが失礼ながら率直な感想です。しかし、せっかくの好意でしたので有り難くゆずっていただきました。

つい最近、自民党のある派閥の領袖が日本の選手に対し、「髪の茶色いヤツが日本人じゃ、敵か味方か分からん。国家を代表する意識を」などと発言しましたが、「先ずは自分達の姿勢を正した方が良いのでは」と反論をしたくなってしまいます。

最後に、私の言いたいことは、21世紀を担う若者達の評判が良くないということよりも、希望を持てる素晴らしい若者達が、この国、日本を支えている事実を知って欲しいということです。

